

公開講座「江戸東京の火災被害の歴史」

この講座では、江戸東京 400 年間の火災被害について、その変化や取られてきた対策の効果などを規模の大きい（500 坪以上）の火災から説明しております。

今回は、歌舞伎や小説にも取り上げられている「お七火事」とされる天和 2 年（1682 年）12 月 28 日（1683 年 1 月 25 日）の火災について、東京市史稿変災篇第 4 を紹介し、そこに記録されている焼失範囲や出火場所を地図上に落とし込んだ資料を基に、多くの死者を出した場所など、また、江戸の火災がどのように現在に伝わっているのかについて説明しました。

午後の街歩きでは、駒込大円寺から深川富岡八幡まで焼失直距離約 7km の延焼経路のうち、秋葉原神田和泉町佐久間町まで歩き、特に出火場所から不忍池までの地形、湯島天神の女坂男坂の状況を実際に体験して頂きました。

最後に、関東大震災および戦災を経て今日もある煉瓦倉庫と、住民の消火活動でみずからの町を守った神田和泉町佐久間町の防火の碑まで歩き講座を終了致しました。

なお、歴史を読み解いて、お七火事をまとめている文献として黒木喬の『お七火事の謎を解く』教育出版、2001 年があります。

以 上

